

一総括表一		
◆ 事業計画		
☐ 地域の現状と今後の方向性		
【地域の現状】 いずみ野地域ケアプラザはいずみ野駅に隣接し、駅前には商業施設や飲食店があり大変活気がある街となっています。クリニックも駅周辺には多くあり医療面でも恵まれた地域です。一方駅から離れると、買い物をするお店や病院が少なく、住宅街や農耕地が広がっています。高齢化は37%と高いですが、要介護認定率は18%と元気な高齢者が多いです。しかし、包括支援センターには認知症に関する相談が多くなっています。弥生台地区は、戸建てが多く、多世代で居住している方も多い地域です。いずみ野・弥生台共にエレベーターのない集合住宅が多くあることから、今後は高齢者の方々の、外出・通院・買い物といった移動や介護保険外の住民間での支え合いが必要となる地域です。 【今後の方向性】 ・地域住民の方とともに、地域に必要な移動や外出支援、また、支えあいの仕組みづくりをさらに進めます。 ・地域の中で認知症に対する理解が進み、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。 ・地域住民が主体となって活躍できる多世代の方が集える居場所づくりに取り組みます。		
☐ 今年度の重点的な取組		
新規	継続	一具体的な取組内容一
☐	☒	・何らかの理由で外出が出来なくなった高齢者への支援、「お出かけサポーター」の活動を更に拡げていきます。 ・居場所支援である「お出かけカフェ」も令和6年度は完全自主化へと移行しました。更なる発展を目指します。 ・活動の担い手にとって活動の場が増えているので、今後もケアプラザの事業への協力・連携しやすい後方支援を進めていきます。
☐	☒	・「チームオレンジ」事業を更に充実させていきます。令和4年6月から若年性認知症当事者の方の居場所「フレンドハーモニーの和」を立ち上げ、順調に活動の幅を広げてきました。また令和6年度より家族会が発足し家族同士の話し合いも始まりました。必要時には包括支援センターにつなげるなど、きめ細やかな支援を継続していきます。 ・小・中・高生・地域の方・企業を対象に認知症サポーター養成講座等を実施してきましたが、今年度は、買い物等で利用するいずみ野駅周辺の商店や金融機関の方対象にサポーター養成講座が開催できるように働きかけていきます。
☐	☒	・昨年度に引き続き、地域住民が主体となって活動できる場を提供するため、超少子高齢化社会に対応した「多世代食堂」を開催します。この食堂では、多世代が集まることで新たな交流の場を生み出すことや、この活動を通じて、地域住民や子ども達が楽しく活躍できる居場所づくりを目的としています。また、泉区も推奨する地産地消取り組みの地元農家と連携して住民と共に地域活性化を推進します。
☐	☒	・今年度も防災への取組を行っていきます。 ・地域の防災運営会議や防災拠点訓練へ参加し、地域との連携強化に努め福祉避難所の周知など必要な情報提供します。 ・近隣の福祉施設との情報交換の機会を作ります。 ・今年度の地域ケア会議は、災害時における地域での安否確認やネットワーク構築をテーマに開催していきます。
☒	☐	・障害への理解を深める取組を行います。 ・これまでも、泉区基幹相談支援センターとの情報交換会を実施し機能の理解を深めてきましたが、今年度は、泉区基幹相談支援センターの役割周知と共催講座の開催、合わせて相談会を実施して地域の方が身近な場所で相談を受ける機会を提供できるようにしていきます。
☐ 振り返り		
地域の多様な課題に対し今年度も高齢者支援から認知症施策、多世代交流、防災、障害者理解の促進まで幅広い取組を行いました。 ・「お出かけサポーター」の活動は6年目に入り、ケアマネ連絡会でエリア内外のケアマネジャーへのインフォーマルサービスとして紹介したこともあり、ケアマネジャーからの相談でゴミ捨てや家族で対応できない通院の送迎等、短期のサービス利用についても対応していただき、今後さらにインフォーマルサービスが必要となることをボランティアの皆さんとも共有することができました。また、隣のエリアの方の外出支援も受けており、近隣ケアプラザとの連携の必要性も感じています。 ・若年性認知症当事者の会「フレンドハーモニーの和」では、当事者の方がお住まいの近隣事業所の方が紹介して下さいたり、若年性認知症支援コーディネーター（ほうゆう病院）が繋いで下さる新しい参加者も増え、開始した当初は2～3人だった当事者が7～8人になり水面下には多くの当事者がいる事を知りました。4年目を迎え、当事者の居場所の必要性和多様性を感じています。若年性認知症の方が参加できる場や内容を当事者と一緒に考え新たな活動の場として近隣施設との連携を進めることができました。 ・小・中学校等での認知症サポーター養成講座の他にいずみ野駅周辺の商店に希望を募り、近隣銀行員に対する講座の申し込みを受けましたが諸事情により開催に至りませんでした。しかし、単位町内会内で住民に対する講座を開催することができ、更に継続した講座開催を希望されたので今後ステップアップした講座を検討しています。 ・令和6年度から、独居高齢者の孤食対策や子どもたちの活躍できる場所、地産地消を目的としてスタートした「多世代食堂いずみ野キッチン」は、新たな交流の場、みんなが活躍できる場として定着してきました。地元農家と連携することで地域活性化にもつながっています。アンケートでは地域のこどもたちの活躍する姿が参加している高齢者の喜びや元気に繋がるとの声をいただいています。地域の中学生～大学生の参加も、自分が町づくりに参加していることを意識できる体験を通して改めて自分の町の地域特性を大事に思う機会となっています。横浜市が3月に発行する「横浜市民生活白書」にコラムが掲載されることになり、協力してくださっているボランティアの皆さんの士気がさらに上がりました。 ・地域の防災委員会に定期的に参加し、福祉避難所や災害時の医療に関する情報提供と情報共有に務めました。また、災害時の要援護者支援について地域の方と意見交換の場を設け、地域の関係者と安否確認やネットワーク構築をテーマに地域ケア会議を開催できました。 ・障害者への理解を深める取組として、泉区基幹相談支援センターの役割周知のため情報交換会やケアプラザの広報誌での紹介をしました。		
☐ 区からのコメント		
・高齢者の外出支援として「お出かけサポーター」の取組は、ケアマネ連絡会等においてエリア内外のケアマネジャーにインフォーマルサービスとして紹介していただき、ケアマネジャーから相談があった様々な生活におけるニーズに対して、サービスの利用へと対応いただいています。今後より一層インフォーマルサービスの重要性が高まるため、貴重なこの取組が継続できるよう引き続き、後方支援等をお願いします。 ・地域ケア会議については、自立支援型、ネットワーク構築型を積極的に開催し、医療専門職等による助言も得ながら、自立支援に向けた効果的なプランが立てられるよう、ケアマネジャー支援を行っていただきました。また、包括レベル地域ケア会議では、防災をテーマに、エリアに関わる数多くの医療介護機関を参加者として組み込み開催いただき、地域のネットワーク構築につながっています。 ・地域活動・学校連携・企業アプローチ・広報発信など多面的な取組を積極的に実施し、相談支援につながる関係づくりを着実に進めています。認知症キャラバンメイト支援や認知症カフェのバックアップ、若年認知症当事者の活動支援など、多様な立場に応じた丁寧な伴走支援にも主体的に取り組んでいます。地域役員や関係機関への働きかけを継続することで、出張講座の実施や新規の相談・参加につながる機会も広がっていただきました。今後も地域資源を生かした連携の推進を図り、相談支援の質向上に向けた取組の継続を期待します。 ・高齢分野とこども分野、地区社協と民児協などが風通し良く、地域の中で顔の見える関係が築かれています。特に「多世代食堂いずみ野キッチン」では、交流にとどまらず、多様な立場の方がそれぞれでできることを協力し合い活躍できる場となっているなど、さまざまな区民が参加できる仕組みがあり、地域ケアプラザとして丁寧な課題整理と、新しい取組への反映が行われています。		